

八代市

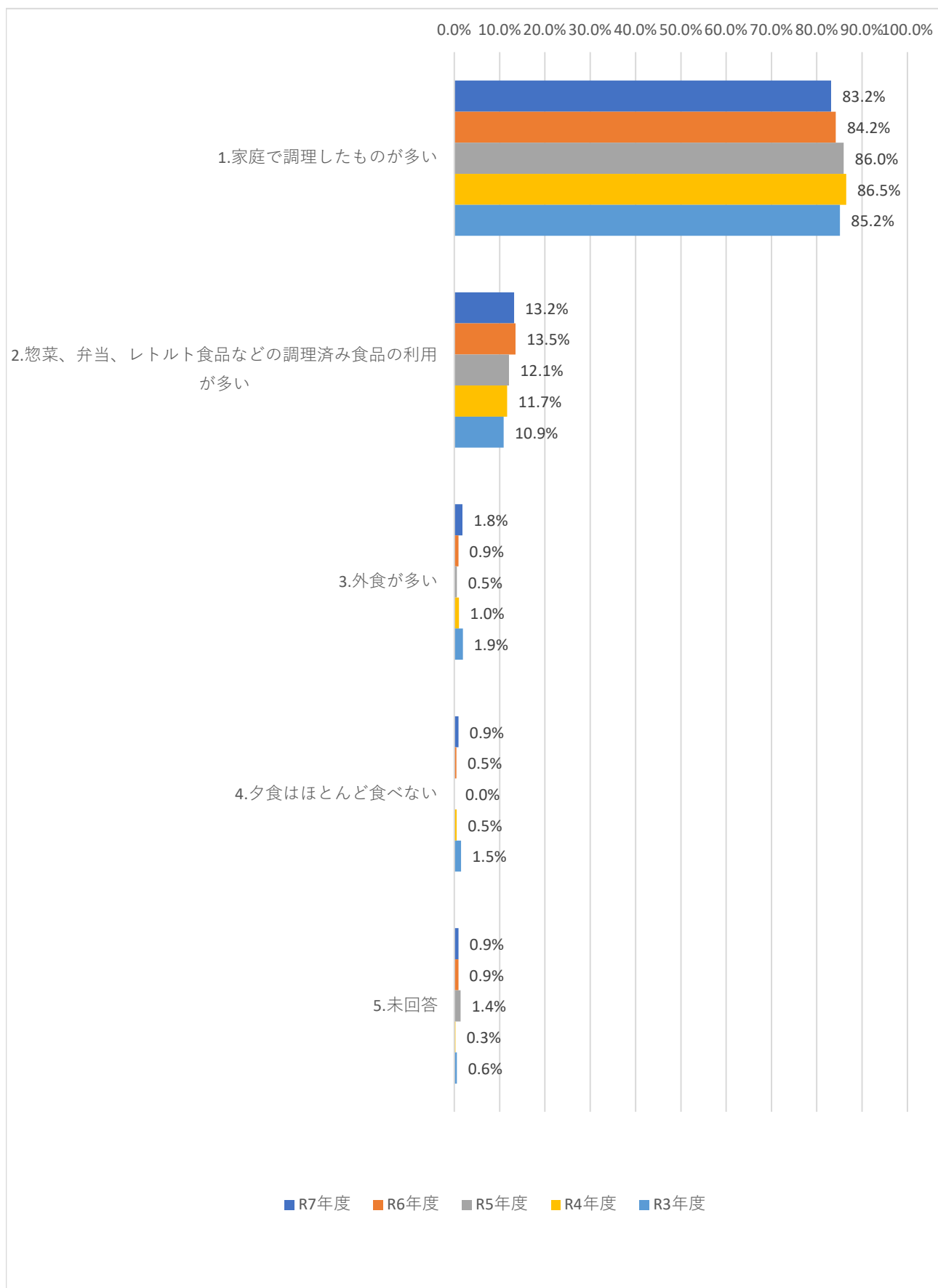
食品ロスに関するアンケート調査

集計結果比較（R3～R7）

※Q1～Q6は省略

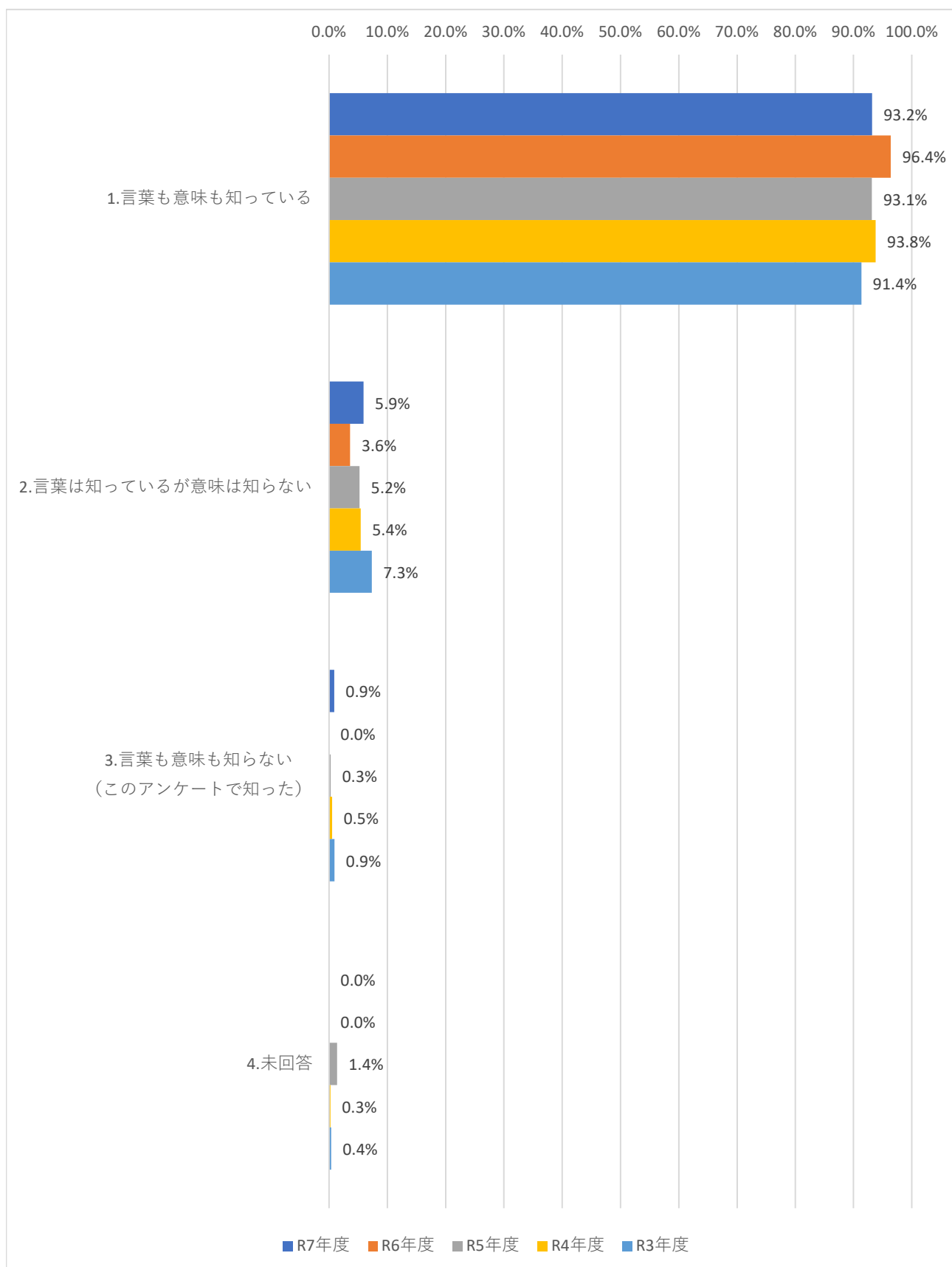
令和8年2月

Q7. あなたの主な食事スタイルを教えてください（夕食について）



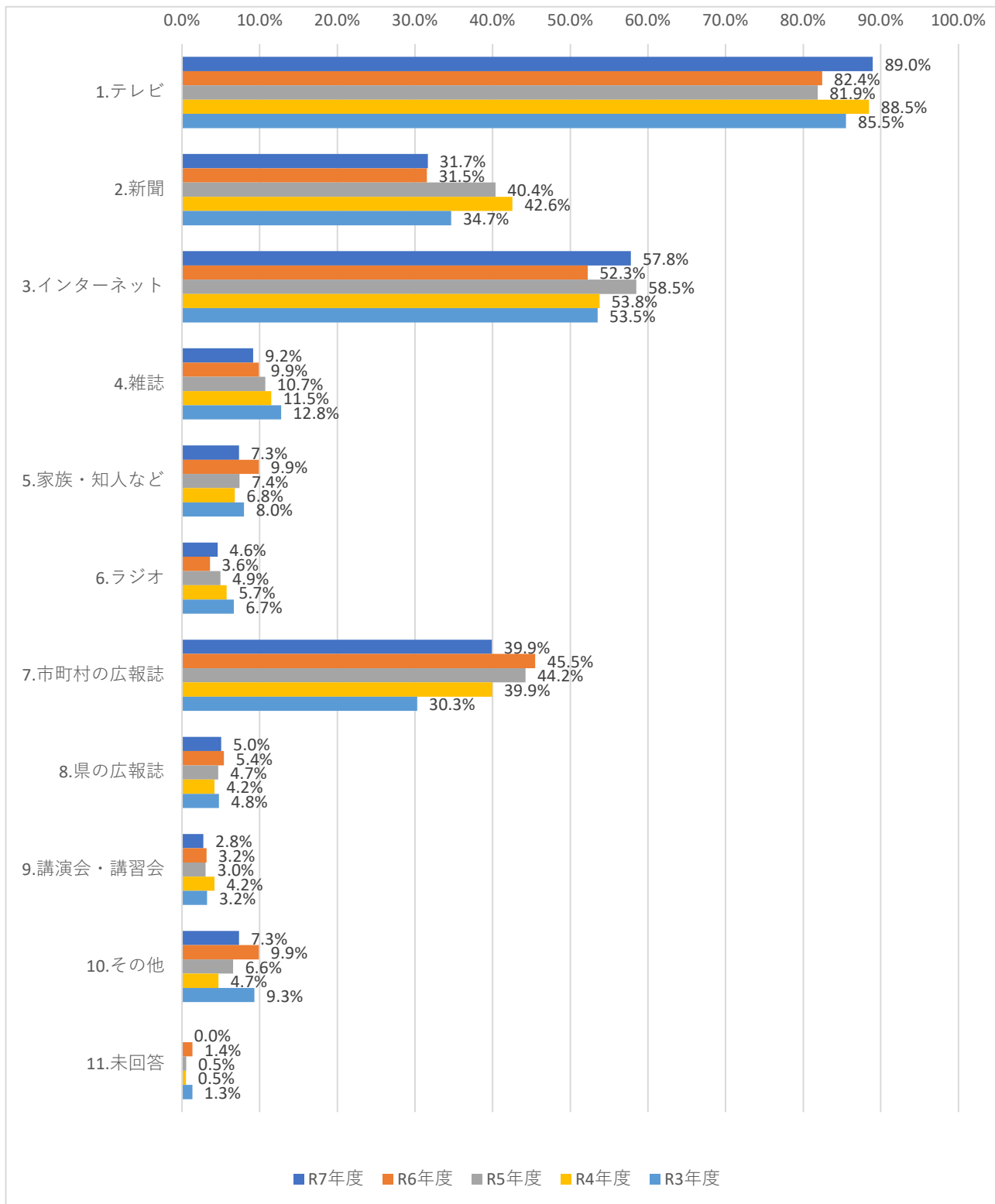
例年、回答者の80%以上と多くの方が家庭で調理したものを食べる傾向にあることが分かる。

Q8. あなたは「食品ロス」という言葉とその意味を知っていますか。



「言葉も意味も知らない」の回答が今年度は0ではなく、さらに、「言葉も意味も知っている」の回答の割合がR6年度よりも3.2%減少した。100%の人が「言葉も意味も知っている」状態を目指し、広報を工夫していく必要がある。

Q9. 「言葉も意味も知っている」又は「言葉は知っているが意味は知らない」と回答した方にお聞きします。あなたは食品ロスに関する情報をどこから得ましたか（複数回答可）

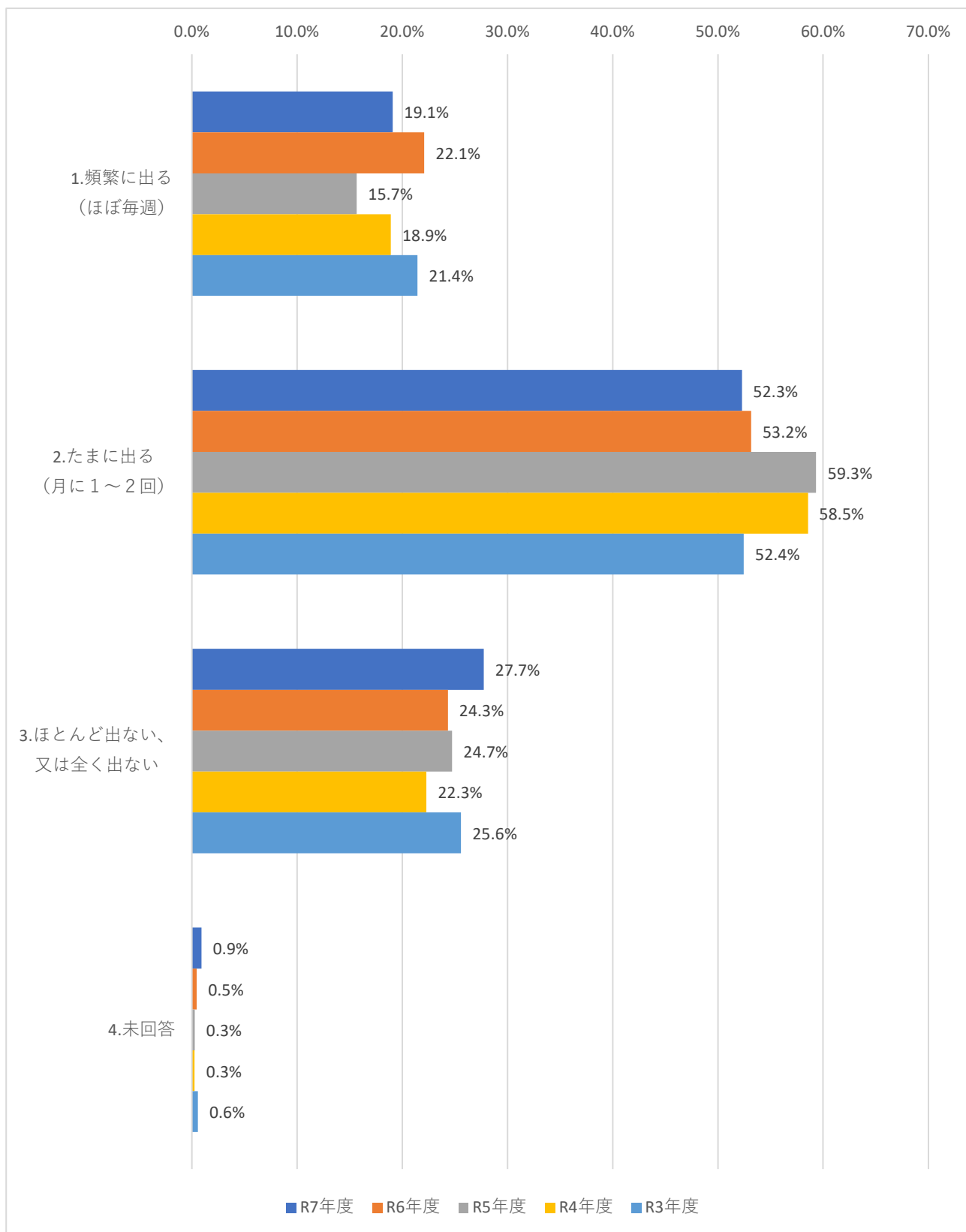


テレビやインターネットの影響力の高さを再確認することができた。

一方で、市町村の広報誌で情報を得た回答者の割合が昨年度よりも5.6%減少していることや、例年割合が増えていない結果を見ると、今後の広報の強化・改善（目に留まるような紙面の作成、様々な媒体の活用）を行う必要があることがわかった。

また、講演会や講習会で情報を得た回答者は2.8%（R7年度）と最も少なく、出前講座等も積極的に活用してもらえるようにすることができれば、より多くの人々が食品ロスについて知ることができるのではないかと考えられる。

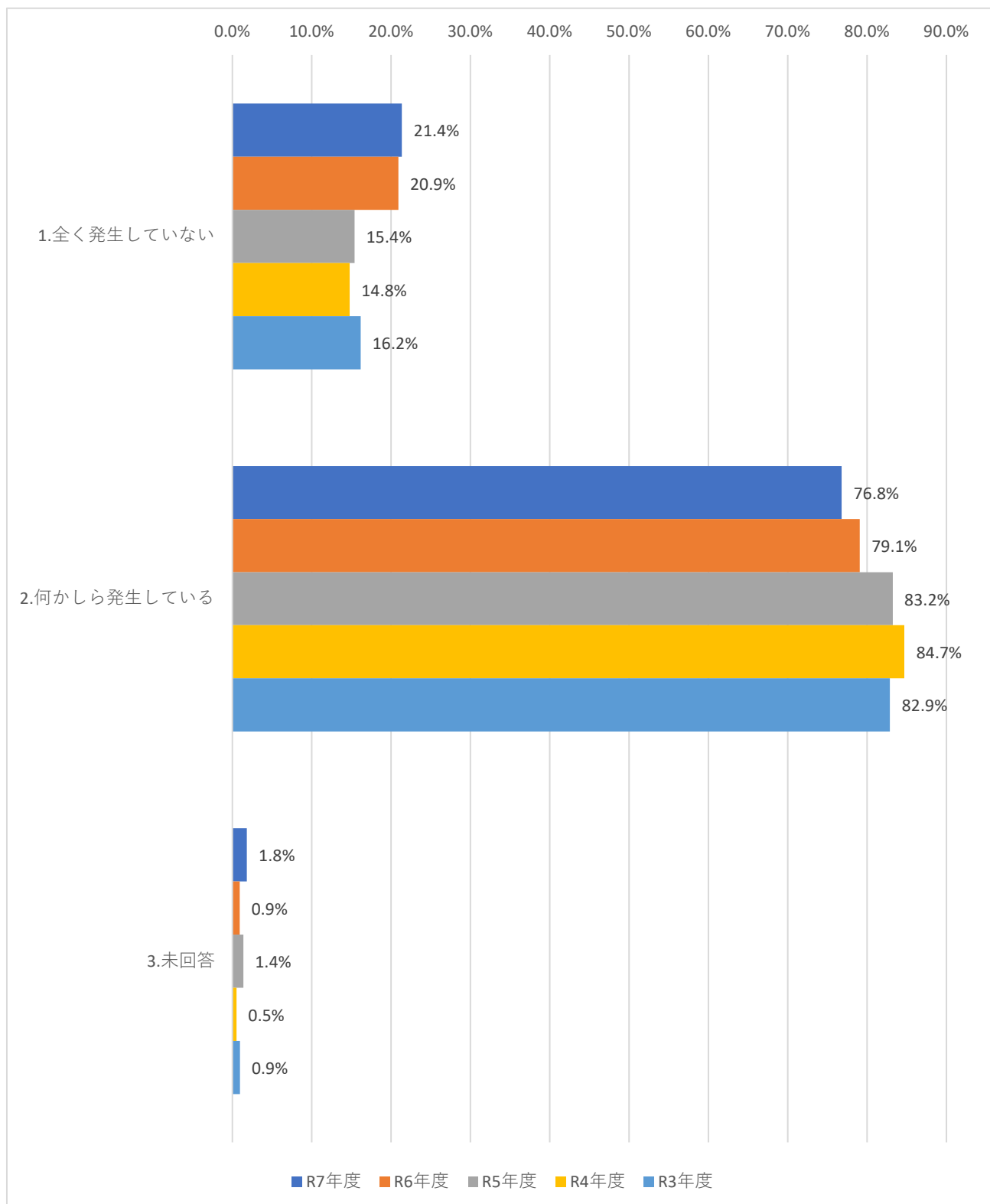
Q10. あなたの家庭から「食品ロス」はどれくらいの頻度で出ますか。



例年、おおむね同じ回答傾向にあることが分かる。「ほとんど出ない、又は全く出ない」と回答した人の意見を見ると、堆肥として活用したり、知り合いに余ったものを分けるなどして対応している方が多く見られた。

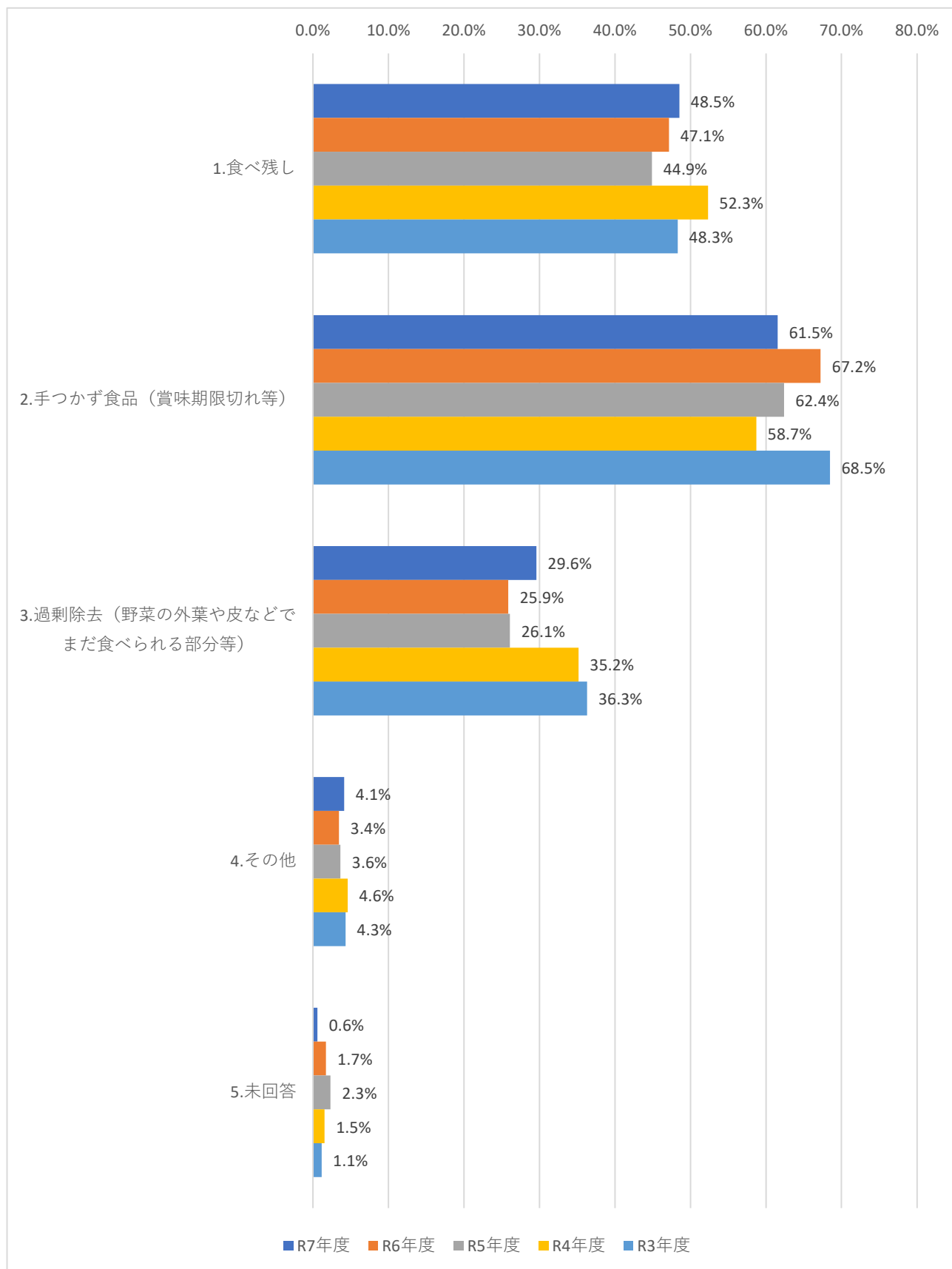
わずかな差ではあるが、「ほとんど出ない、又は全く出ない」と回答した人の割合は今年度が最も高く、R6年度より3.4%上昇した。市が助成している生ごみ堆肥化容器等設置助成金制度について、毎年多くの申請が寄せられるため、その結果も影響しているのではないかと考えられる。

Q11. あなたのご家庭ではどのような「食品ロス」が発生していますか。
 (「何かしら発生している」を選択した場合、表示される項目で該当するものに○をつけてください。○はいくつでも可)



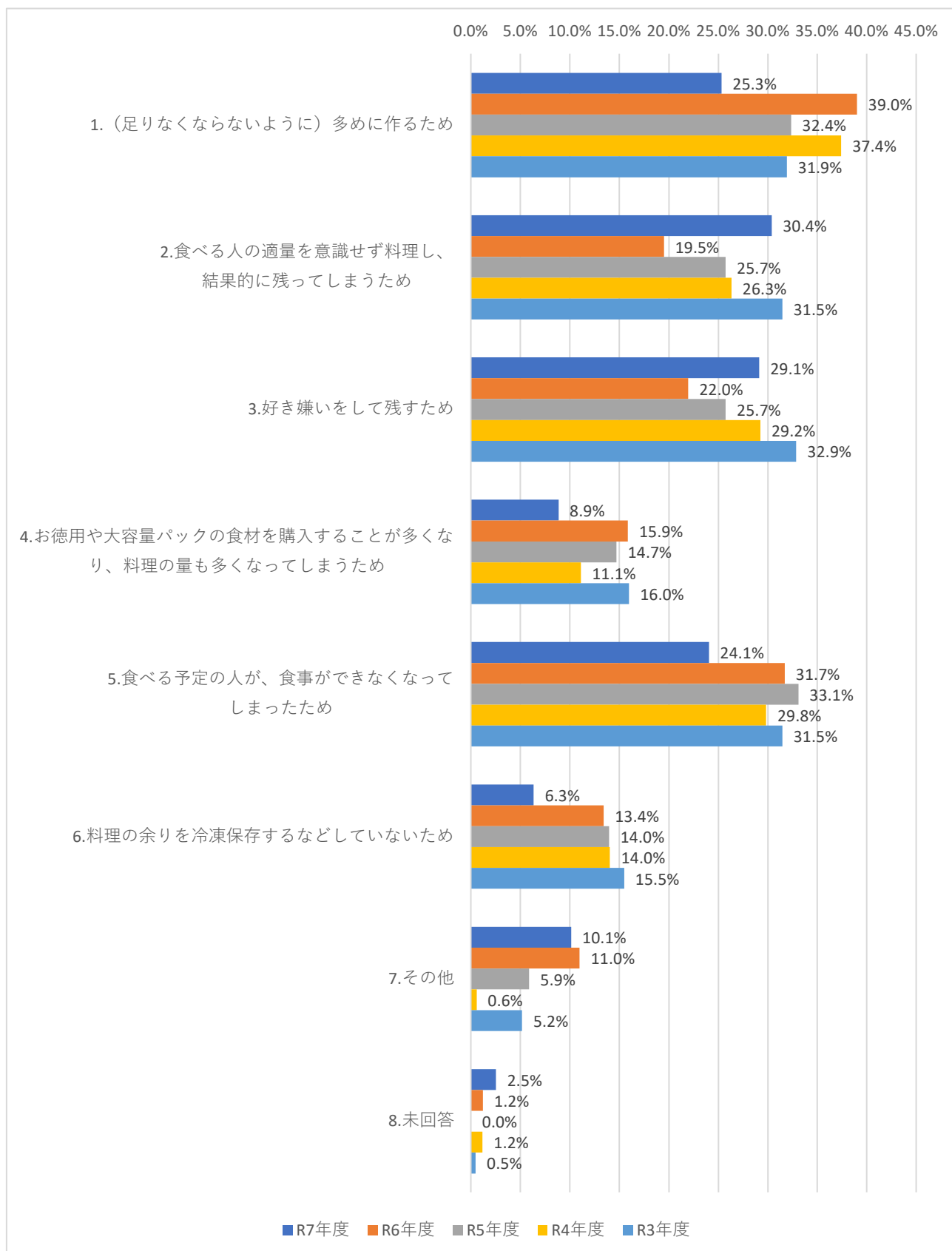
「何かしら発生している」と回答した人の割合はR4年度から継続的に減少していることがわかった。最も数値の高いR4年度（84.7%）と比較すると、7.9%減少している。回答者のみの状況を考えると、少しずつではあるが食品ロスの発生量は改善していることが分かる。

(Q11.の続き) 発生している食品ロスは何か



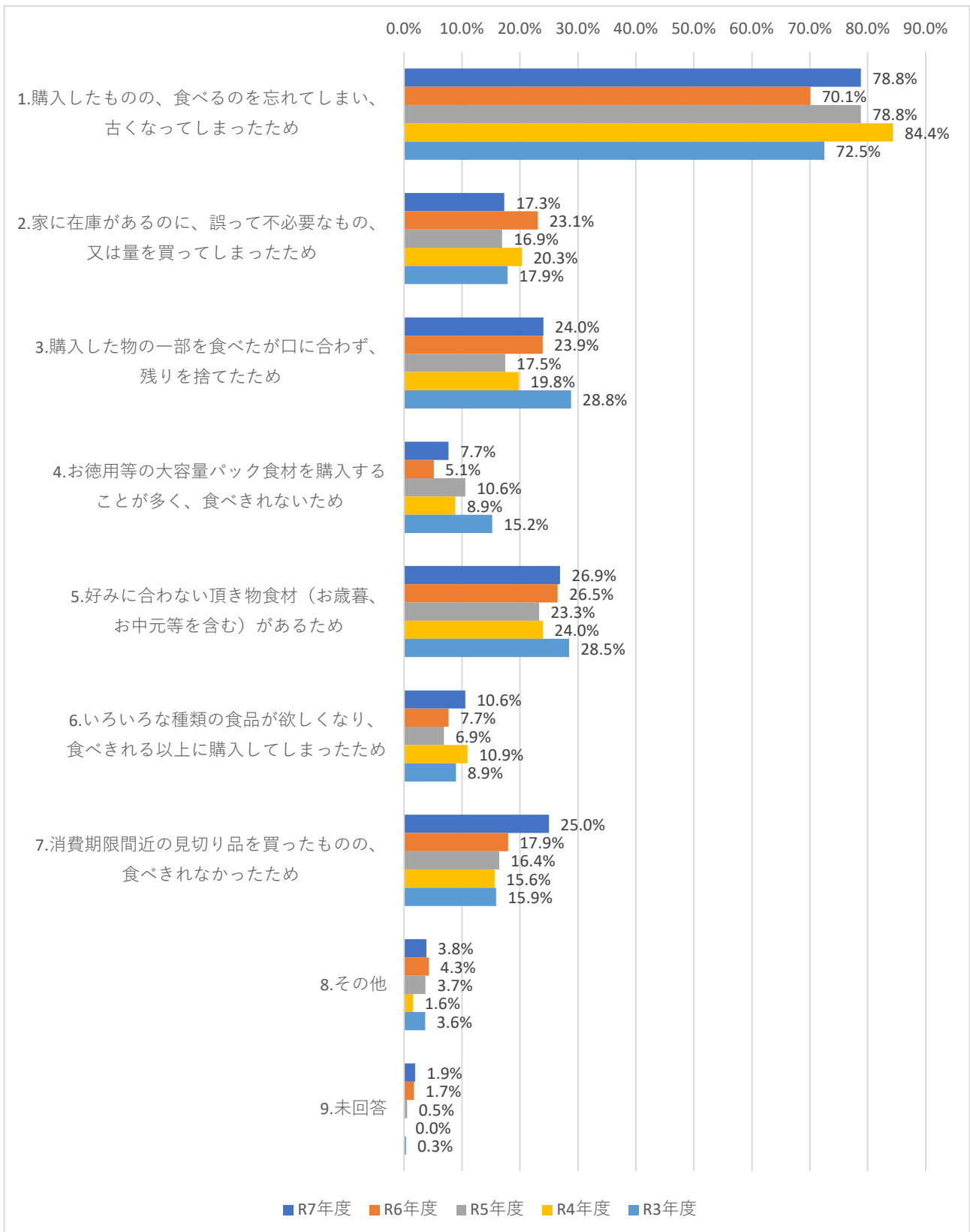
例年、最も回答が多いのは「手つかず食品」であることが分かる。賞味期限と消費期限の正しい理解を促すとともに、食材の上手な保存方法、フードドライブの普及啓発、利用しやすい体制の整備等が必要であると考えられる。

Q12. 「食べ残し」を選択された方にお聞きします。あなたの家庭で「食べ残し」が発生する理由は何ですか。○はいくつでも



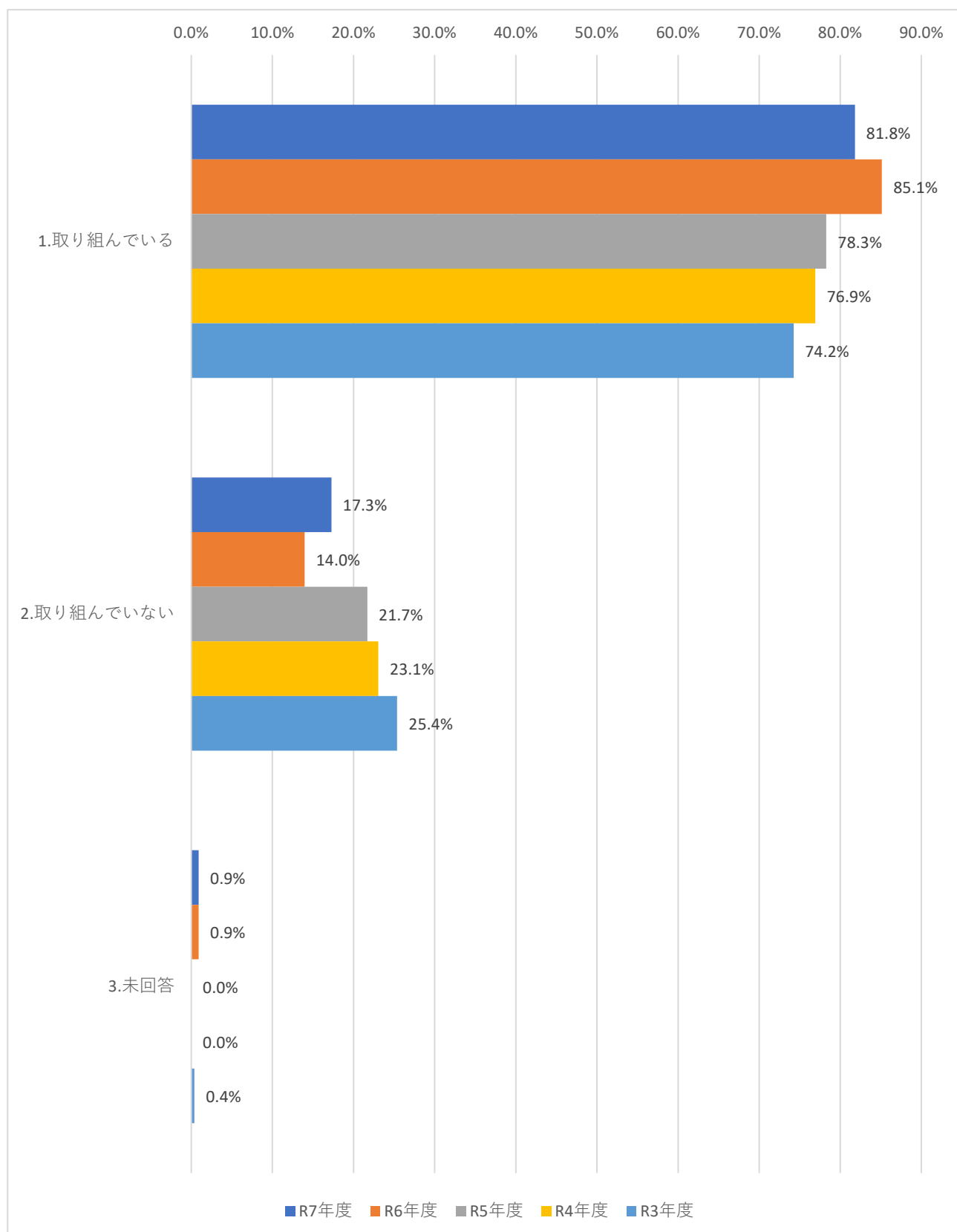
他の質問に比べて数値の変動は大きいものの、例年似たような回答傾向にあることが分かった。食材が長持ちする保存方法や、使い切りレシピ、好き嫌いのある人でも食べやすいレシピの情報等を普及啓発していく必要があると考えられる。

Q13. 「手つかず食品（賞味期限切れ等）」を選択された方にお聞きします。
あなたの家庭で「手つかず食品」が発生する理由は何ですか。（〇はいくつでも）



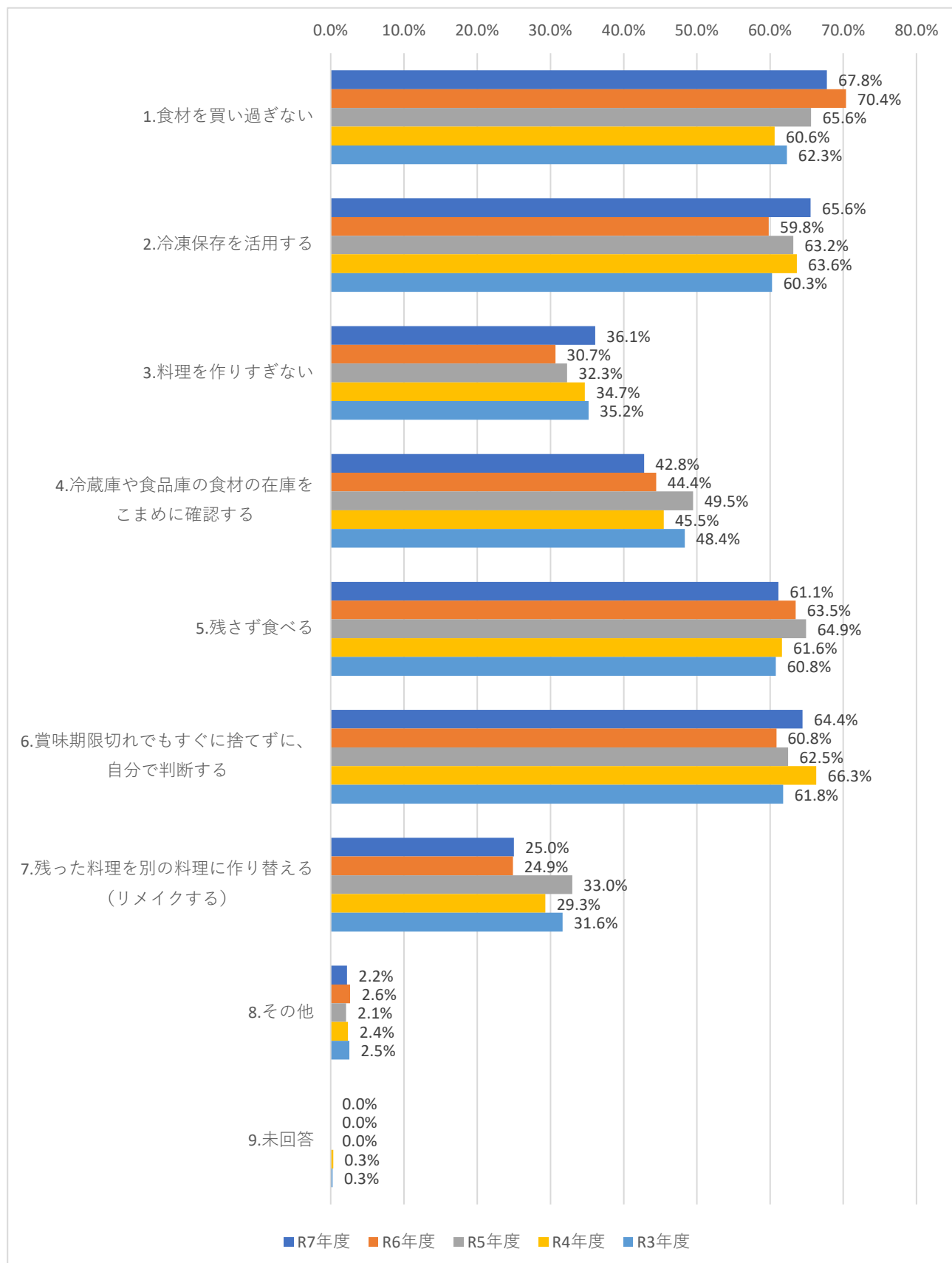
好みに合わない食材や、食べきれない量の食材については、フードドライブ等を実践することでロスを減らすことが可能である。そのために、市民がフードドライブを利用しやすい体制の整備や、実施していることを知ってもらうための広報を継続する必要があると考えられる。また、上手に買い物をするためのコツや冷蔵庫の管理術などを啓発するのも有効であると考えられる。

Q14. あなたのご家庭では「食品ロスの削減」に取り組んでいますか。



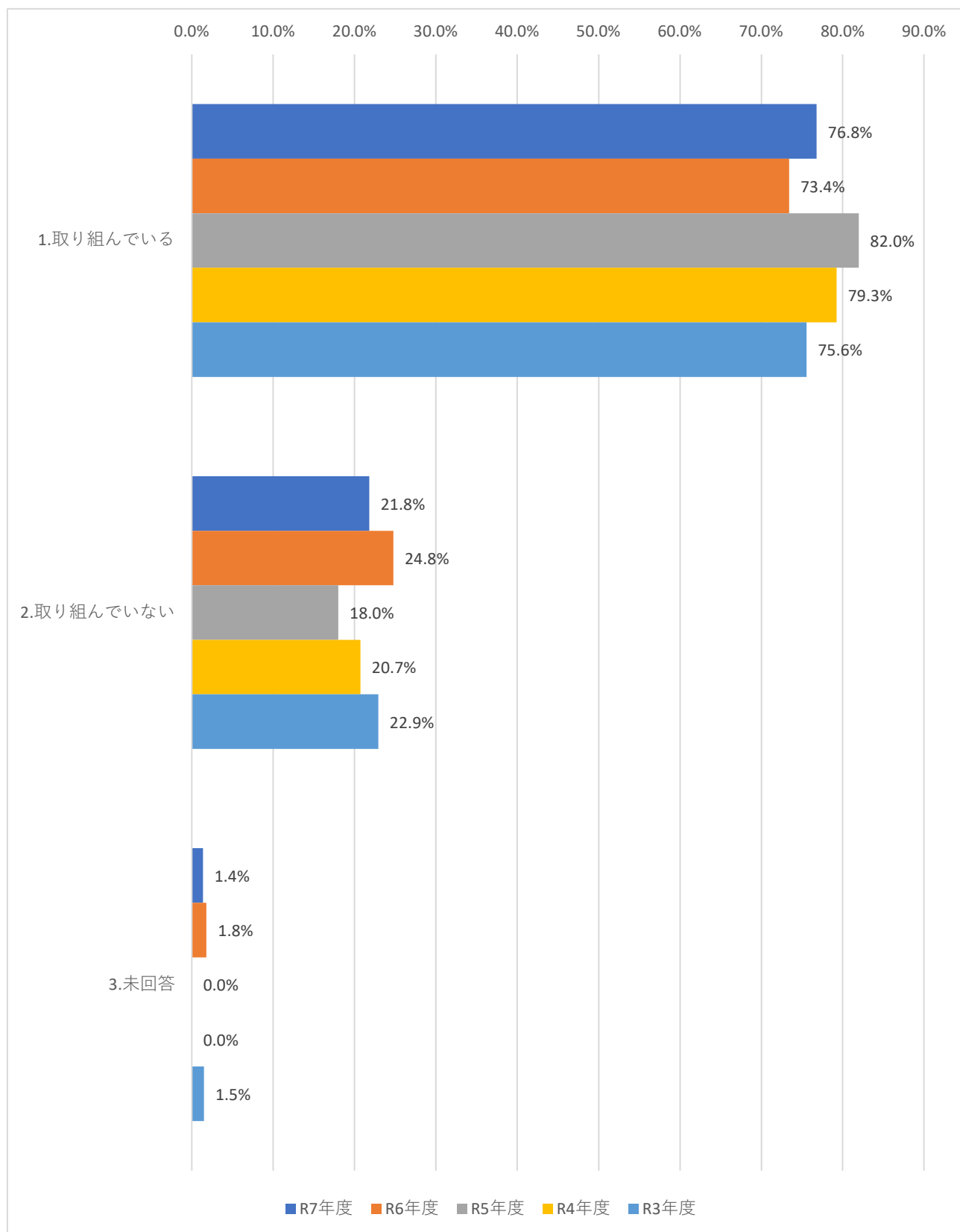
「取り組んでいる」と回答した人の割合は昨年度が最も高く、今年度はR6年度より3.3%減少していた。「食品ロス削減のために何をすればよいのか分からない」という意見も散見されるため、食品ロス削減のために私たちができることは何か、普及啓発していく必要がある。
※具体的に何ができるのかについては次の質問参照。

Q15. 「取り組んでいる」とお答えの方に伺います。どのような取組を行っていますか。（あてはまるもの全て）



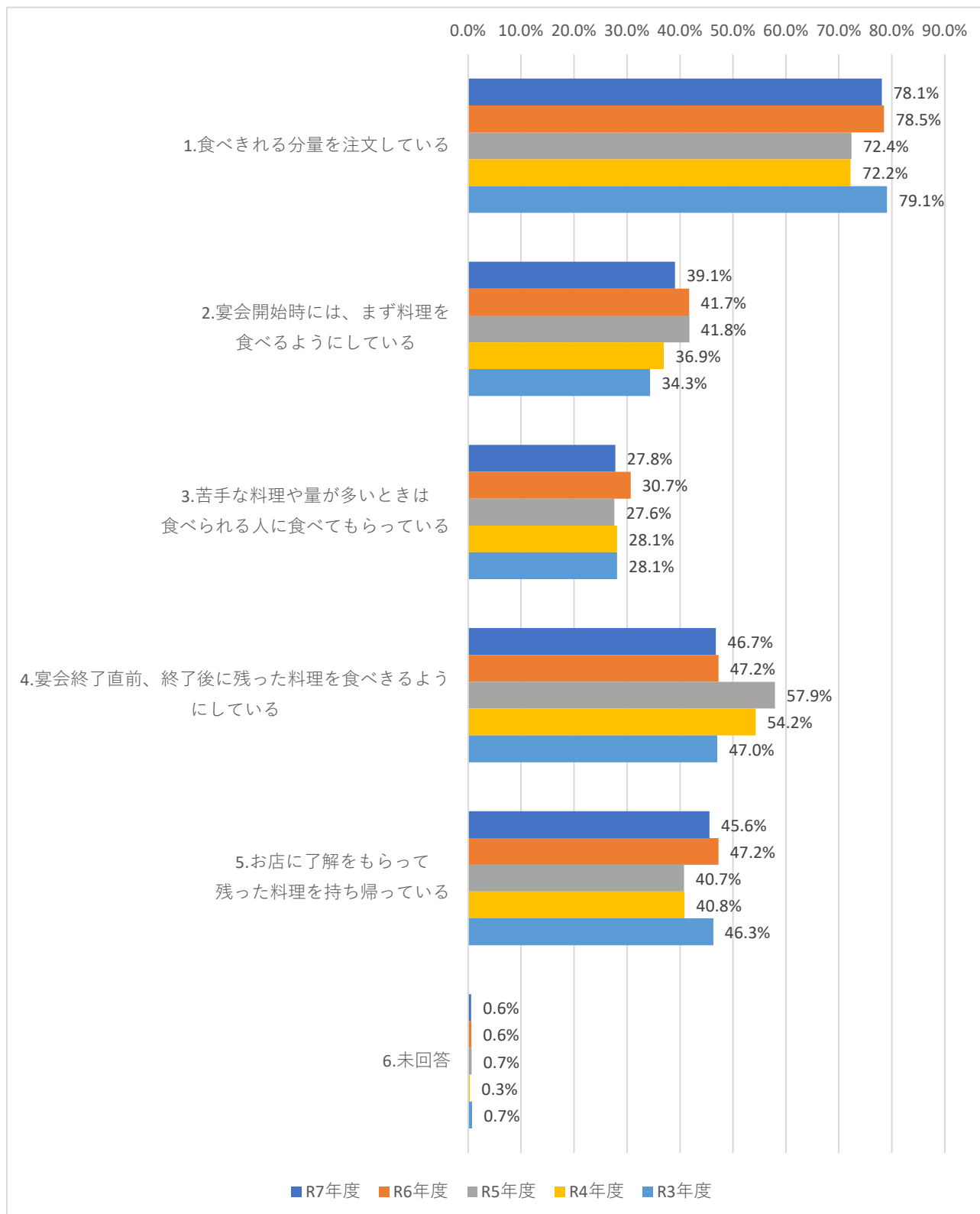
例年、おおむね同じ回答傾向にあることが分かった。繰り返しにはなるが、保存方法や調理方法の工夫、賞味期限・消費期限に対する正しい理解があれば、食品ロス削減の取り組みを始めることができる人がさらに増えると考えられる。

Q16. あなたは、外食や宴会で「食品ロスの削減」に取り組んでいますか。



今年度の結果を見ると、「食品ロス削減のために取り組んでいる人全体」の割合はR6年度より3.3%減少している（Q.14）一方で、「外食や宴会時に食品ロス削減に取り組んでいる人」の割合はR6年度より3.4%増加している。外食時の食べきりなどのチラシを各所に掲示したことや、広報誌への掲載を可能な限り繰り返したことが要因であると考えられる。しかしながら、最も数値の高いR5年度（82.0%）と比較すると減少しているため、まずはR5年度以上の結果を目指し広報を継続する必要がある。

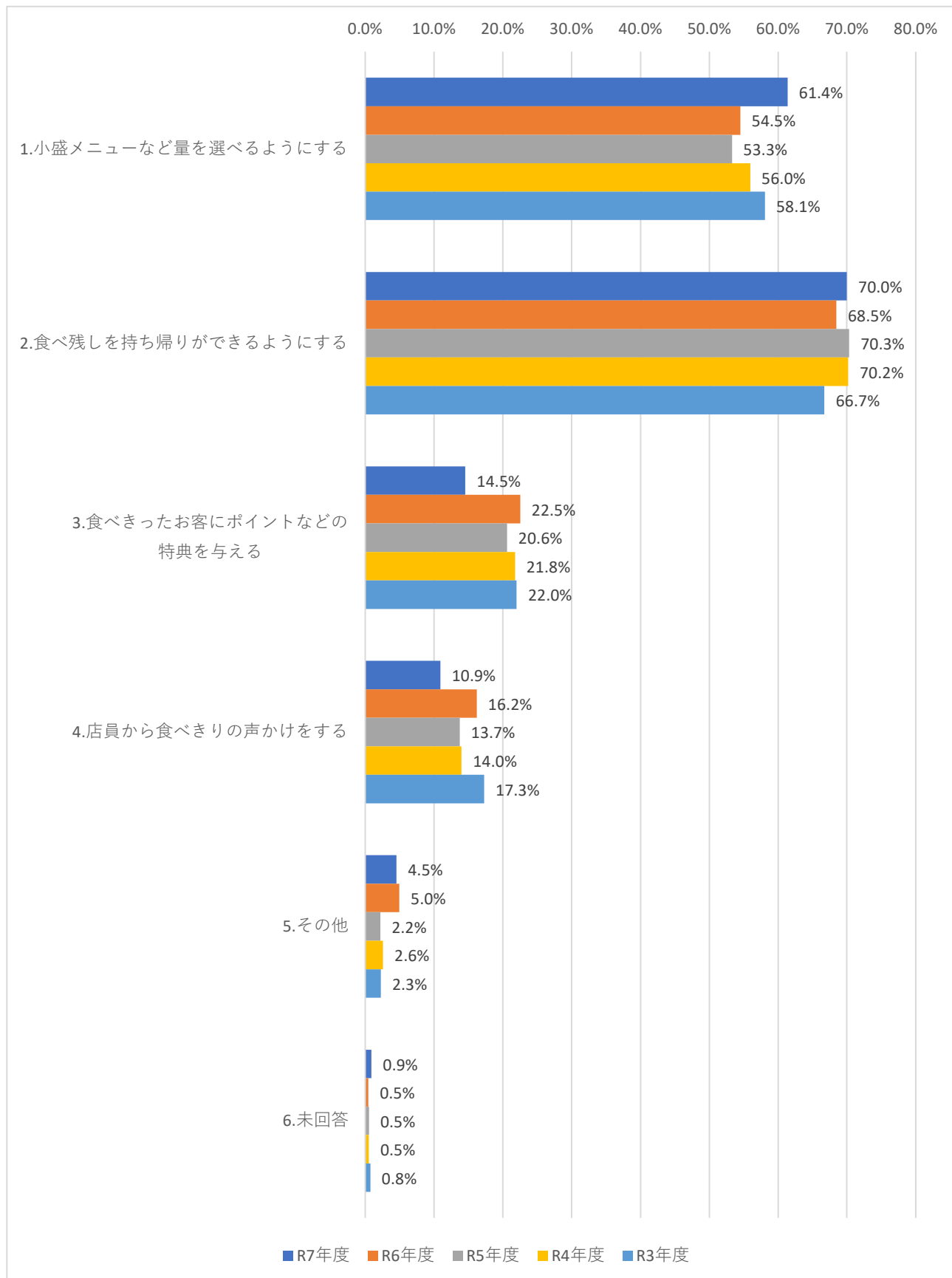
Q17. 「取り組んでいる」とお答えの方に伺います。どのような取組を行っていますか。（あてはまるもの全て）



例年、80%近くの回答者が外食・宴会での食品ロス削減のために、「食べきれ分量を注文する」ようにしていることが分かる。どの選択肢もおおむね例年と同じ回答傾向にあるが、より多くの人に外食・宴会時の食べきりを意識してもらえよう、広報を強化・継続していく必要がある。

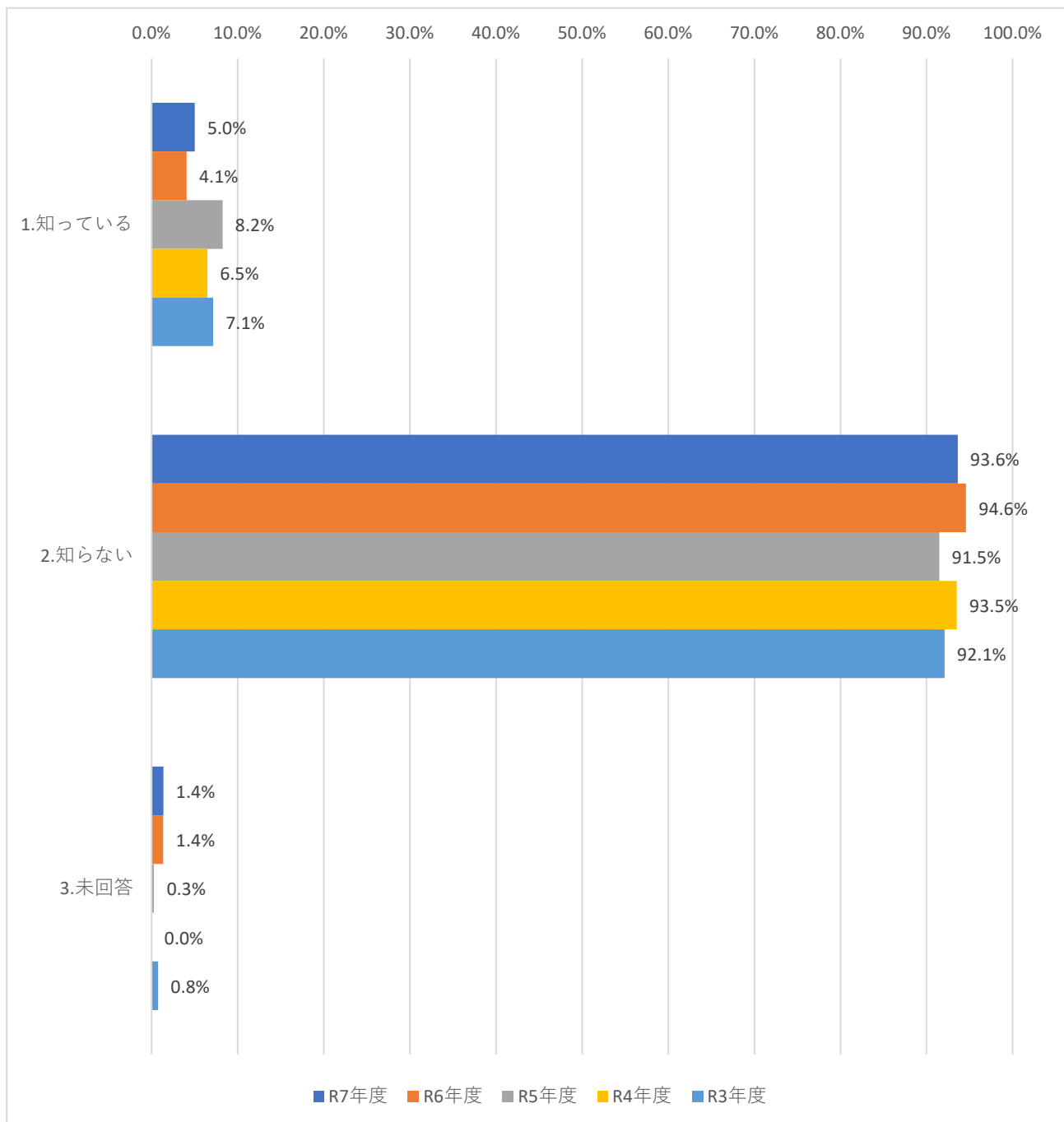
持ち帰り可能なお店が増えて欲しいという回答者からの意見も散見される。食品衛生管理などの店側の負担の問題等もあるが、良い方法がないか検討する必要がある。

Q18. 飲食店の「食品ロス」を減らすため、お店はどうするのが効果的だと思いますか。



回答結果を見ると、「小盛メニューの導入」や「持ち帰り」ができるようにすることが特に効果的であると考える人が多いことが分かる。

Q19. 九州食べきり協力店を知っていますか。



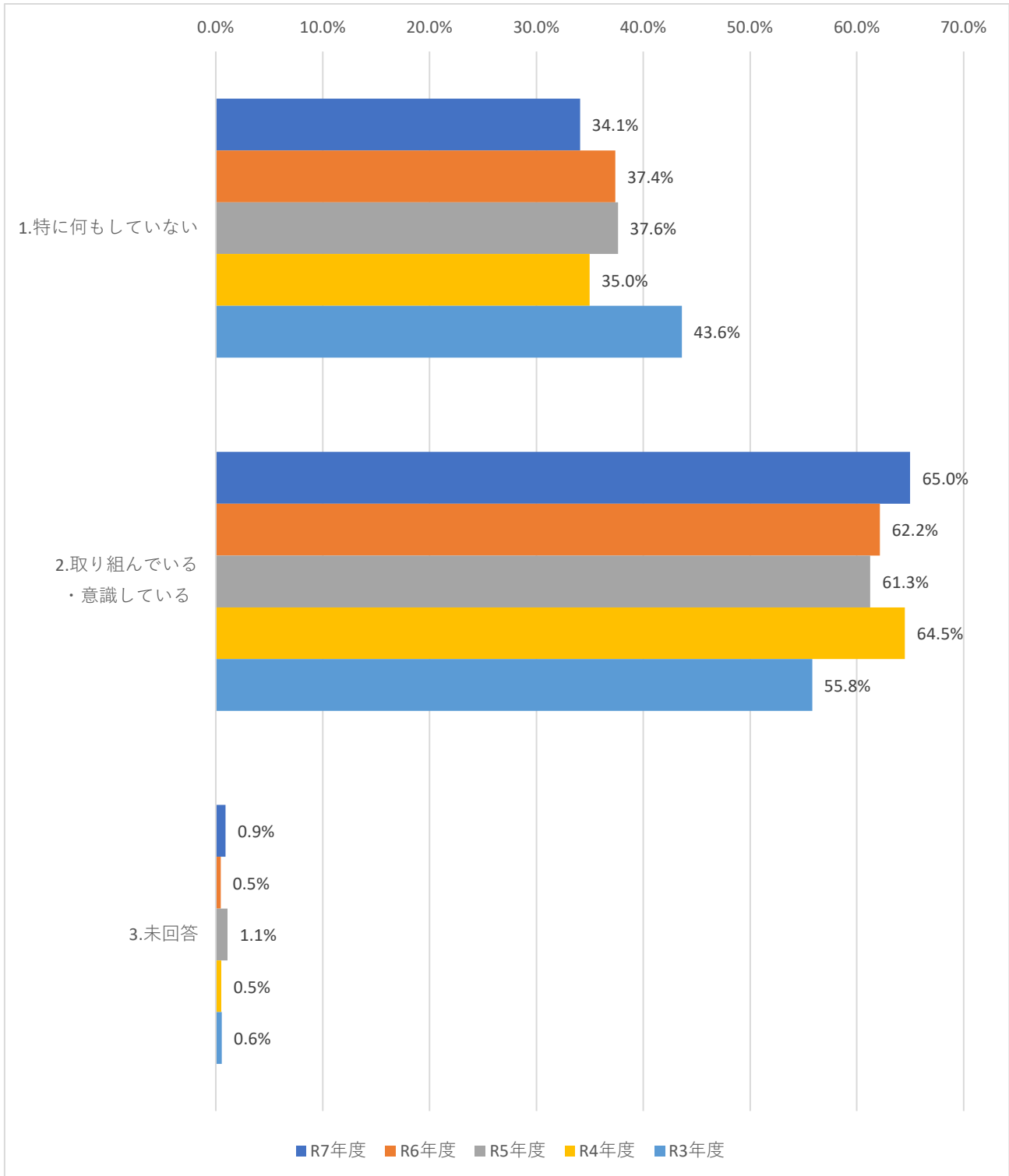
例年、大多数の回答者が「知らない」と回答していることが分かる。専用のHP等を作成してより多くの人に知ってもらう必要がある。

※「九州食べきり協力店」について

九州食べきり協力店制度に基づき登録された、九州7県で食品ロス削減やリサイクルに取り組んでいる飲食店、宿泊施設、食品販売店等のことを言います。各県がその店舗の利用を推奨することにより、県民への啓発と意識の高揚を図るとともに、食品ロス削減を促進することを目的としています。環境意識の高い店舗を探す際の目安のひとつにもなります。

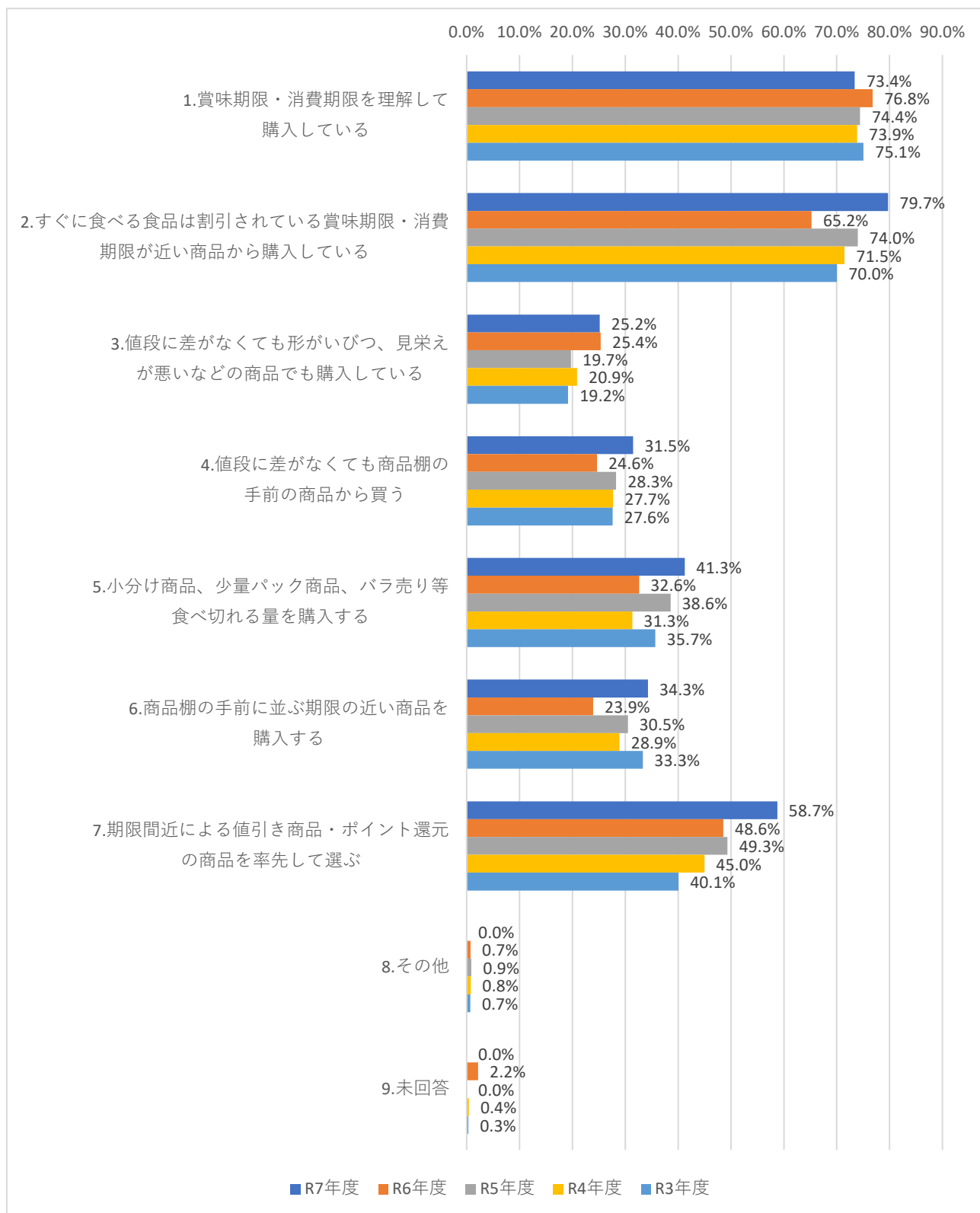
(参考) 熊本県ホームページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/53/50758.html>)

Q20. スーパーマーケットやコンビニなどの「食品ロス（売れ残り等）」を減らすために、あなたが取り組んでいることや意識していること何ですか。
 （「取り組んでいる・意識している」を選択した場合、表示される項目で該当するものに○をつけてください。○はいくつでも可）



取り組んでいる人の割合は今年度が最も高いことが分かる。
 アンケートを開始したR3年度（55.8%）と比較すると9.2%増加している。

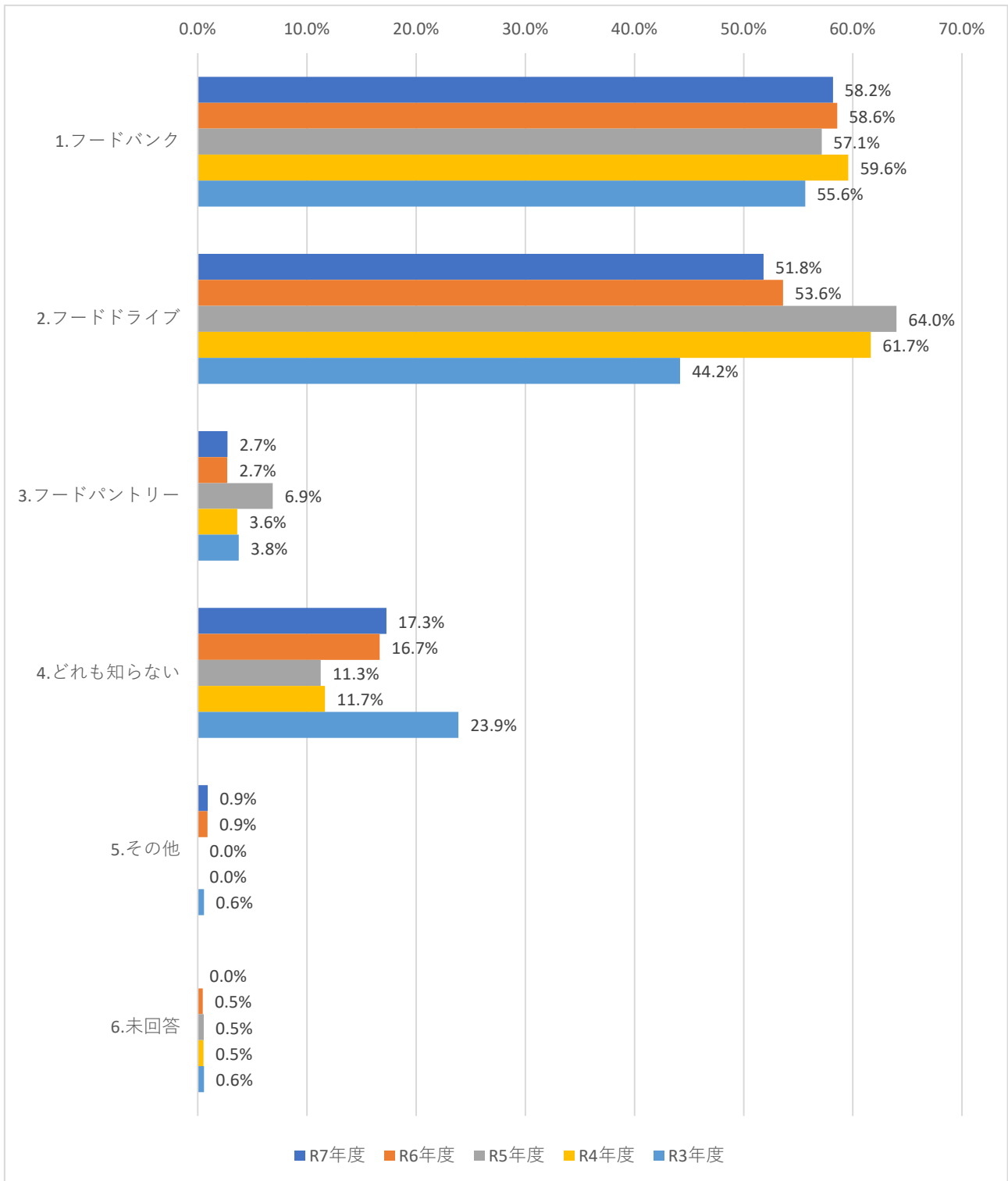
(Q20. の続き) 具体的に取組んでいること



「賞味期限・消費期限」や、「手前取り」、「食べきれぬ量」を意識して買いものをする人の割合について、R6年度と比較するとそれぞれ14.5%、17.3%（選択肢4と6の合計）、8.7%増加していることが分かる。

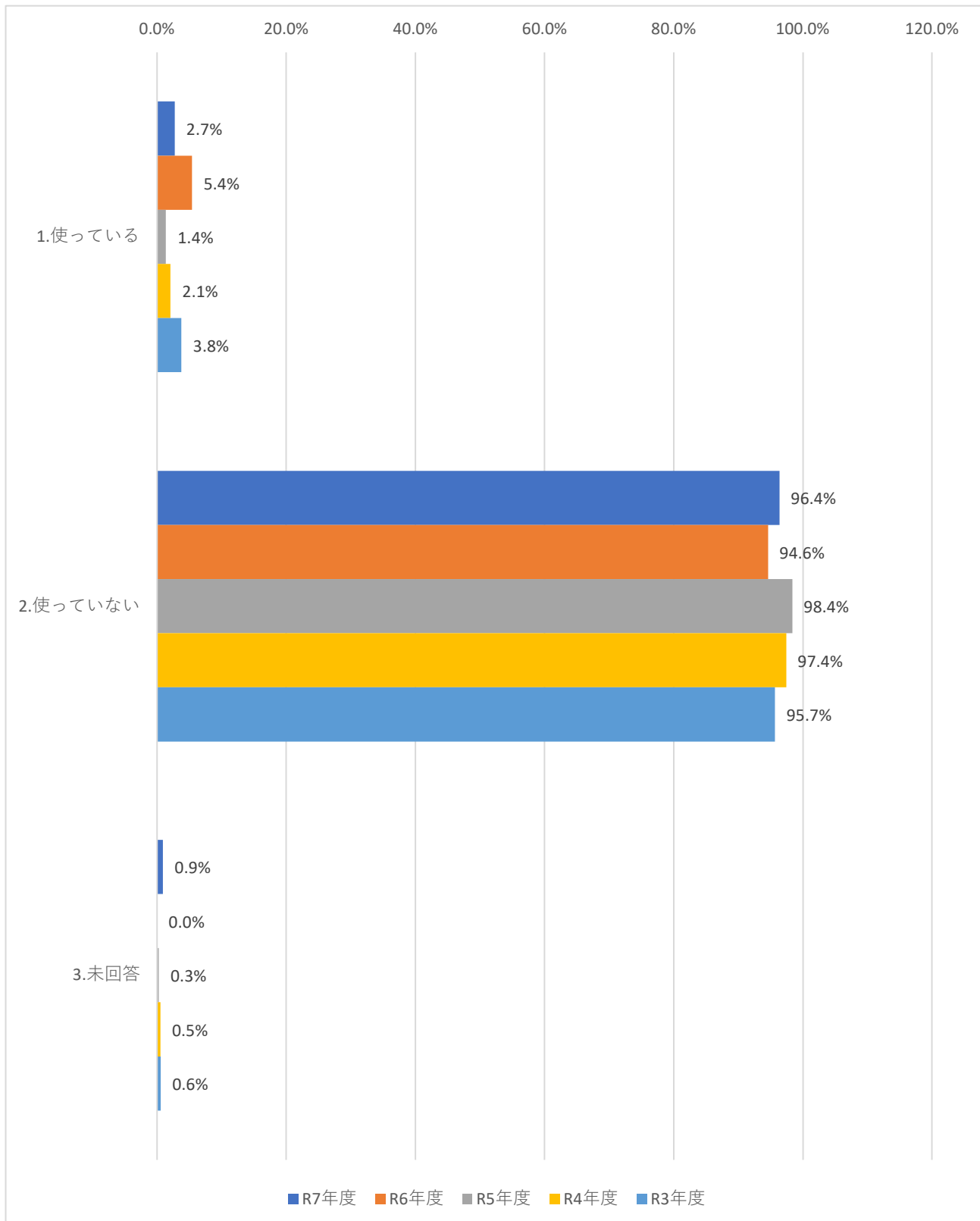
一方で、賞味期限・消費期限を「理解」して購入する人の割合はR6年度から3.4%減少しており、これは過去の結果と比較しても最も低い数値となっている。引き続き広報・啓発を続け正しい理解を促していく必要がある。

Q21. 食品を必要とする家庭や団体等に、家庭で余った食品を提供する活動が話題になっています。あなたが知っているものを教えてください。（あてはまるものすべて）



「フードドライブ」について、市としても例年10月、1月に市民向けにフードドライブを実施しているところであり、出前講座等でも食品ロス削減の取組の1つとして必ず紹介を行っているところであるが、「知っている」と回答したのは51.8%であり、残りの約半数の市民には広報が行き届いていないのが現状であることが分かる。最も回答者の割合が多いR5年度と比較すると、12.2%も減少している。これまでの広報をただ繰り返すのではなく、手段や媒体を増やすなどの工夫を行っていく必要がある。

Q22. 「食品ロス削減」のためのアプリやWEBサービス（フードシェアリング含む）等を使っていますか。



回答者の多くはアプリ等を使っていないことが分かった。
少数ではあるが、アプリを使っている人の意見を集め、今後の施策の参考にすることも有効ではないかと考える。